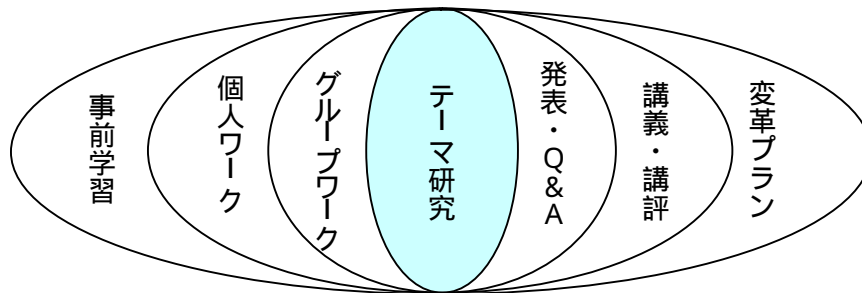


MTS Management Thinking Study

思考変革コース

～気づきから自己変革へのプロセス～



<内 容>

1. 管理者の思考変革の必要性
2. 思考変革コースの目的
3. 思考の展開パターン
4. 思考変革コースの全体構成
5. 標準カリキュラム
6. 本コースの実施要領

日本コンサルタントグループ

1 . 管理者の思考変革の必要性

社会的背景

一部の業界には景気回復の兆しが見えるものの、多くの企業においては依然として過剰設備、過剰雇用、過剰債務の処理などが続いています。このような状況の中で、中高年ミドルのスリム化や産業の空洞化がすすみ、価格破壊現象が定着化してきました。

つまり、世の中は構造的に大きく変わり、これまでの企業経営のあり方やしくみでは成り立たなくなってしまうと言えます。

こうした状況の中で企業が生き残っていくには、企業自体も大きな転換をしなくてはなりません。従って、企業経営者も管理者層もマネジメントが変革されていく中で自己変革が求められており、従来の企業風土、組織、システム、業務活動等全てが新しい時代に対応していかなければならなくなっているのです。

従来型管理者の問題点

これまでの日本の企業経営下では、管理者は決められていることや上から言われたことを実行することにウエイトが置かれ、先輩や自分自身の経験並びに判断基準をもとに発想していました。いわゆる現状維持型、体制順応型などのイメージの管理者群です。このような管理者は、自ら発想することや行動を変え新しいことに取り組んでいくことに抵抗感をもつものです。

このままでは管理者の自己変革ひいては企業の変革は期待できません。

思考変革の必要性

そこで、従来型管理者のパターンに陥りやすい人達には、思考変革の必要性を認識させ、世の中の動きや企業の動きと自分の考え方、現実の職務・業務のあり方とその格差に気づかせ、その必要性を認識させる必要があります。

本研修はこのような狙いのもとに開発されたものです。

2. 思考変革コースの目的

管理者に求められる思考法

企業を取り巻く経営環境の急激な変化に対応するには、経営トップだけでは対処できません。

管理者の一人ひとりが自らの役割をより目的々にとらえ直すとともに、新しい視点で多くの思考の仕方を身につけ、行動を変えていかなければなりません。

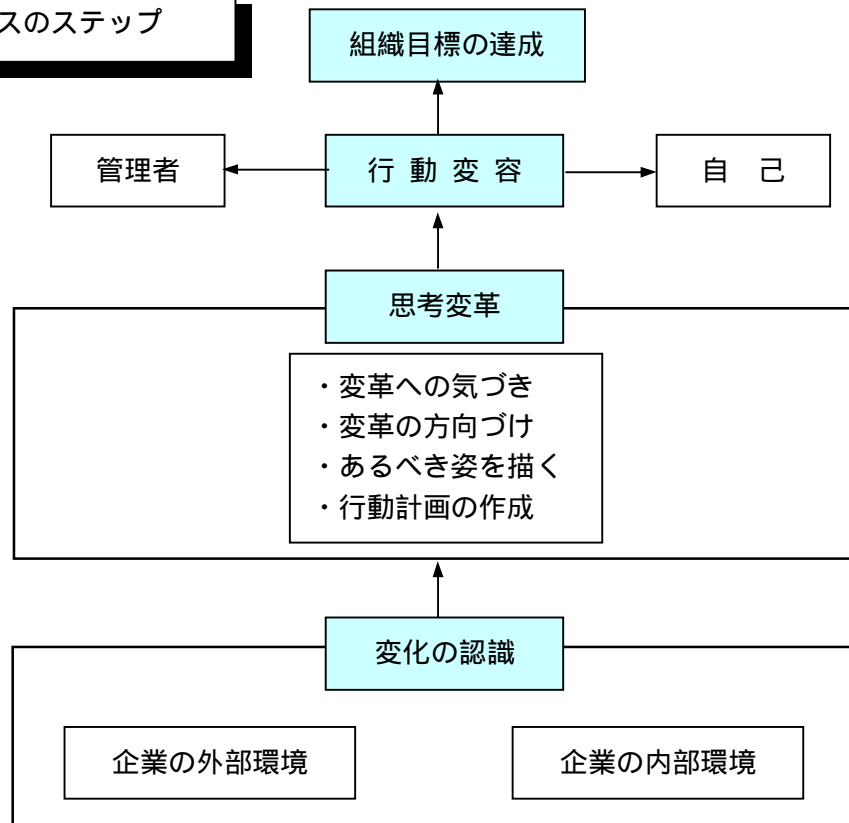
そのような思考法を管理者として自分自身のものにしていただく必要があります。

本コースの目的

私どもでは、自部門の戦略が構想できる「創造型思考能力」をそなえた管理者像を提唱します。そのためには、まず環境変化や市場の動向を認識する必要があります。その上で、それが自社と管理者自身にどのような影響を及ぼしているか、また、及ぼそうとするかを自分自身に置き換え、具体的に何をすべきかを柔軟に思考することが求められます。

即ち、適切な変革の方向を発見・構築・実践できる能力が不可欠の条件となります。

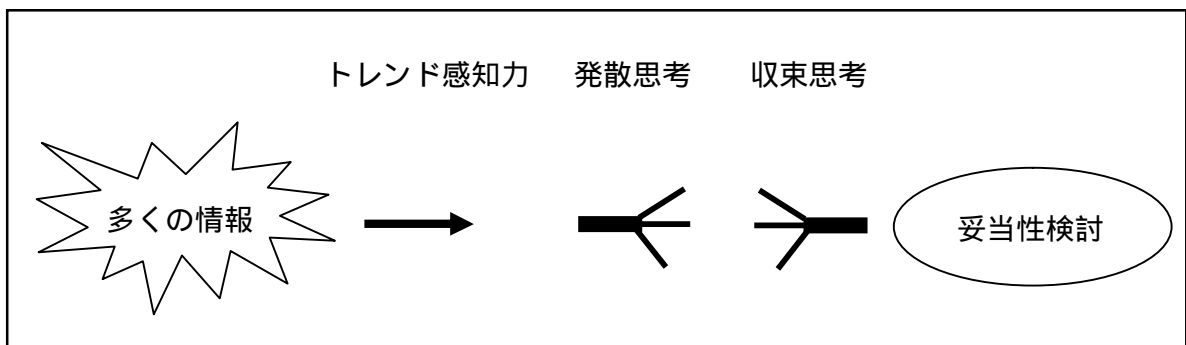
本コースのステップ



3. 思考の展開パターン

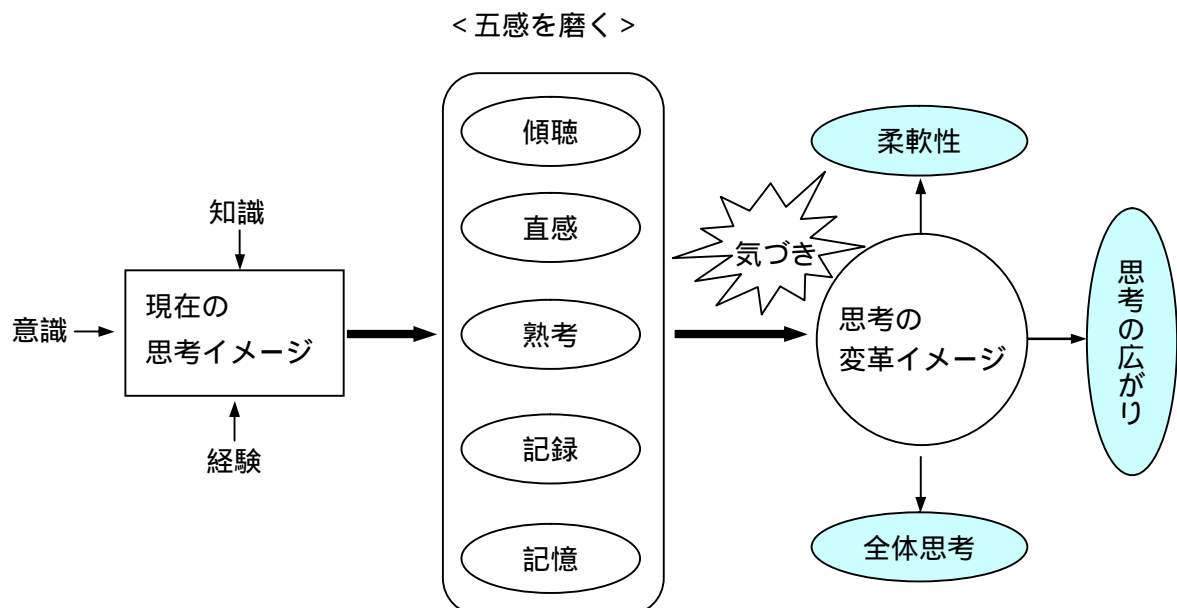
本コースの思考展開パターン

まず前提として、多くの情報を使って思考します。「発散的に広く思考した内容」を「収束思考」により、具体的な方向を導き出します。その上でさらに思考し、整理した内容が「実際に妥当であるかどうか」を検討します。この一連の展開が思考変革につながっていきます。

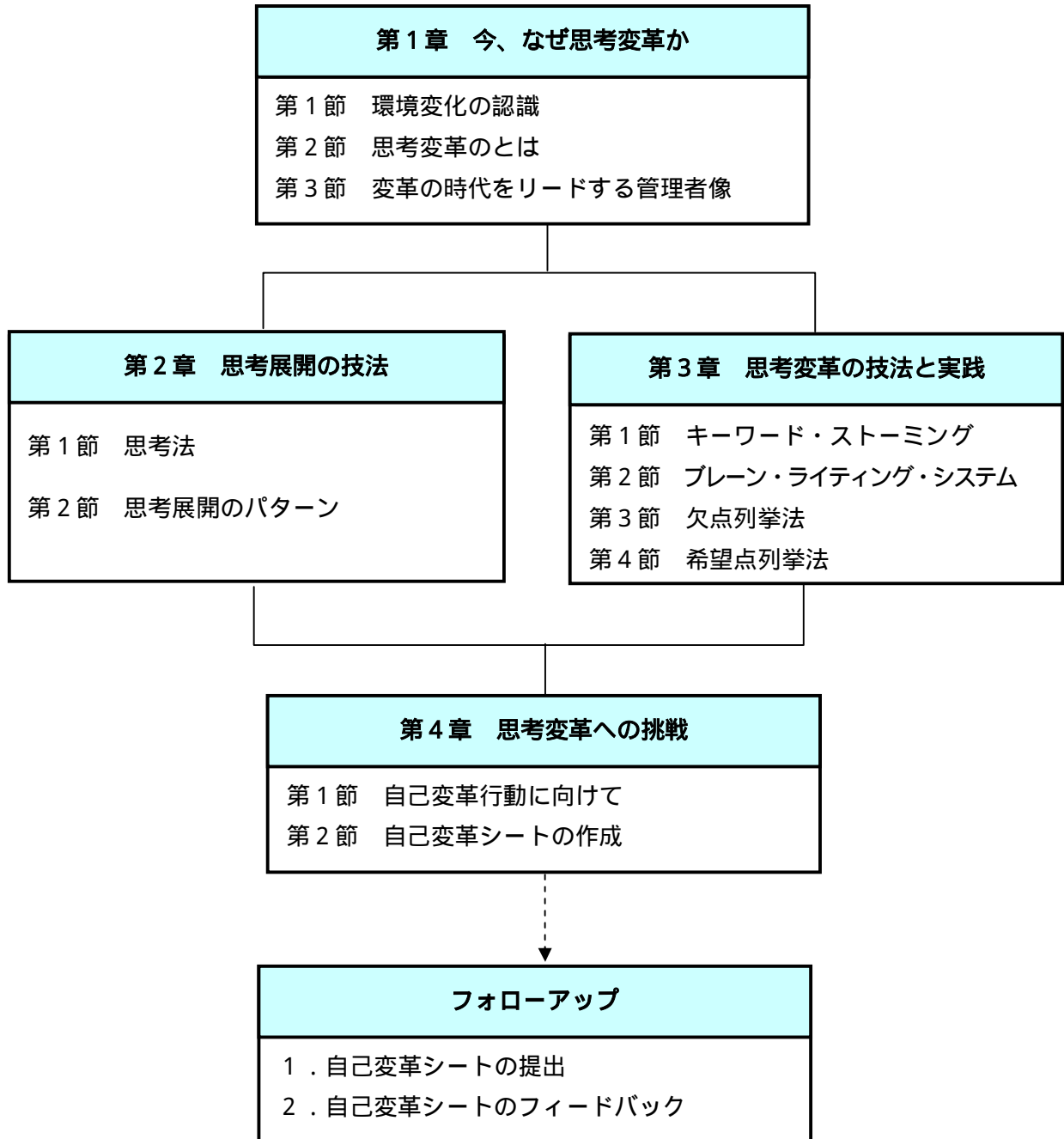


気づきの重視

本コースでは“気づき”を得るための最適な方法として、パーソナルワークとグループワークを反復的に繰り返し展開していきます。また、気づいた内容も放っておくのではなく、気づいた時点で記録し、しっかりと記憶にとどめることを求めます。



4 . 思考変革コースの全体構成



5. 標準カリキュラム（1泊2日コース）

第 1 日 目			第 2 日 目		
時間	研 修 内 容	研修方法	時間	研 修 内 容	研修方法
9:00	<ul style="list-style-type: none"> ● オリエンテーション 1. 今、なぜ思考変革か <ol style="list-style-type: none"> 1) 環境変化の認識 2) 思考変革とは 3) 変革の時代をリードする管理者像 2. 思考展開の技法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 思考法 2) 思考展開のパターン ● 自己紹介 	講 義	9:00	継続 6) チャートの作成 7) BWSの振り返り <頭の体操> 6. 欠点列挙法 <ol style="list-style-type: none"> 1) シート記入 2) 発表、Q & A 3) 講師コメント 	G W P W P W G W
12:00	<頭の体操>	P W	12:00		講 義
昼 食			昼 食		
13:00	3. キーワード・ストーミング (KWS) <ol style="list-style-type: none"> 1) 技法の説明 2) 最重要キーワードの設定 3) 関連図の作成 4) 我が社のシナリオ作成 5) 発表、Q & A 6) 講師コメント 7) KWSの振り返り 	講 義 G W	13:00	7. 着眼、着想トレーニング ~あなたならどうする~ 8. 自己変革行動に向けてのまとめ <ol style="list-style-type: none"> 1) コースの振り返り 2) 自己変革シートの作成 3) チーム内フィードバック 	P W G W P W G W
18:00	4. 改善の着眼点 <ol style="list-style-type: none"> 1) 改善例の抽出 2) 期待される成果 	P W G W	17:00	終了	
夕 食			夕 食		
19:00	5. プレーン・ライティング (BWS) <ol style="list-style-type: none"> 1) 技法の説明 2) KWSからの経営課題の設定 3) 課題対策のカテゴリーの設定 4) シート記入 5) 重点方策の設定 	講 義 G W P W G W	PW: パーソナルワーク GW: グループワーク		
21:00					

6 . 本コースの実施要領

対 象 者

- ・ 現在、管理職の立場で活躍されている方々、
- ・ 今後管理職として登用される方々
- ・ 職種が転換する方々

定 員

- ・ 20名以内

研修方法等

	1泊2日コース	3日コース
事前学習	(2 時間)	(2 時間)
本研修	・ BWS の演習なし ・ 自己変革シートの 発表なし (17 時間)	・ BWS の演習実施 ・ 自己変革シートの 完成、発表 (19 時間)
事後学習	(1 時間)	
所要時間	延べ 20 時間	延べ 21 時間